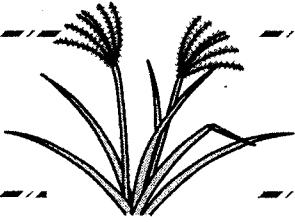


礼
い
は
拝
い

令和4年10月24日
6号

時間を大切にしよう

億劫(おつくう)と億劫(おくこう)



二学期の中間テストを終え、本日は午後から文化祭映像部門の鑑賞が行われます。中間考査に向けての準備期間、時間はうまく使えたでしょうか。今月の月間目標の小テーマにある「時間の大切にしよう」の通り、限られた時間の中で、一分一秒を大切に使うことは、自分の人生を左右する大切な要素であると思います。

さて、みなさんは「億劫(おつくう)」という言葉を聞いたことがあるでしょ

うか。この頃は耳にする機会がほとんどありません。ただし、子

どもの頃に先生から「おつかうがらすにきちんとやりなさい」というフレーズを、

何度か聞いたことがあります。また、本を読んでいると出てくることもありますので、耳なじみの言葉ではあります。意味や使い方は概ね次のようなことになります。例えば、「疲れていて何をするのも面倒くさかつたり、自分のペースが乱されそうなので気乗りがないときなどに」「そんなことするのはおつくうだ」とか「考えるのもおつくうだ」のような使い方をします。気乗りがしない、面倒くさい、動きたくないときに用いられる言葉で、あまり前向きなイメージのない言葉として定着しています。

億劫(おつくう)はもともと「おくこ

う」と読み、それが「おくこう」そして「おくこう」と変化してきました。億劫は仏教用語として使われる言葉で、非常に長い時間のことを意味します。古いインドの言葉で「カルパ」という時間の考え方があり、仏教では最も長い時間を表す単位として用いられます。カルパが「劫波」と漢字表記され、次第に省略されて「劫」と表されるようになりました。

佛教では億劫もの長い間にも聞くことすら難しい正しい教えを得る好機は、人間として生を受けた今しかないと説かれます。聖歌集にある「開經偈」にも、人間として正しい教えに会えたことの喜びや、この機会を逃さずに学びを深めようという内容が記されています。億劫から見れば人間の一生はほんの一瞬の時間です。面倒だなあ、億劫(おつくう)だなあと思った時には、ぜひ億劫(おくこう)の意味を思い出し、今しかないチャンスを絶対に逃さない気持ちで、真理探究、精進努力をしていきましょう。

佛教では億劫もの長い間にも聞くことすら難しい正しい教えを得る好機は、人間として生を受けた今しかないと説かれます。聖歌集にある「開經偈」にも、人間として正しい教えに会えたことの喜びや、この機会を逃さずに学びを深めようという内容が記されています。億劫から見れば人間の一生はほんの一瞬の時間です。面倒だなあ、億劫(おくこう)だなあと思った時には、ぜひ億劫(おくこう)の意味を思い出し、今しかないチャンスを絶対に逃さない気持ちで、真理探究、精進努力をしていきましょう。